

概要と経緯

- 途上国の政府機関や大学等において、SDGs達成に向け、我が国との開発協力を推進する上で将来のキーパーソンとなりうる若手人材を対象に、各分野の政策課題について、当該国政府の適切な政策決定や取り組みに貢献する高度人材を育成するもの。
- 留学先の国内大学(修士・博士課程)で日本の開発協力の知見を学ぶ「JICA開発大学院連携」のコースの1つ。
- 2019年度から開始。2025年度の執行実績額は約12.8億円。
- 日本国内の72の大学(修士・博士課程)に、88か国から合計351名の研修員が在籍(2025年11月時点)。

<実績>

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
在籍者数	93	116	174	263	347	369	351

「JICA開発大学院連携」

<研修員受入コース>

・SDGsグローバルリーダー など25コース(2025年度)
(大学院(修士・博士課程)の正規学位課程に就学する研修
コース)



<日本理解プログラム>

(JICAが提供する学位課程外の日本
理解促進プログラム)

SDGs GLの事業費と内訳(2025年度実績)

単位:千円

	項目	支出実績額
1	航空賃等	124,333
2	入学金・授業料	340,654
3	奨学金及び教育研究・就学支援費	816,333
	合計	1,281,320

【参考】2024年度 1,303,702

2023年度 1,448,807

帰国した研修員とのネットワーク維持・強化

1. ネットワーク維持に関する取組み

- 各国で結成されている「帰国研修員同窓会」を通じて、各種講演会の開催や出発前研修への講師としての参加、各在外公館主催行事への招待等により、帰国した研修員との連携を維持・強化。
- 要職に就いている帰国研修員の現状把握調査も定期的にも実施。

2. 人材ネットワークを活用することで日本との協力に貢献した事例

●ジェイ・タリエラ氏【出身国】フィリピン【留学先大学】政策研究大学院大学(博士課程)
帰国後、フィリピン沿岸警備隊の本庁人事課長、海洋安全保障に関する長官アドバイザーを歴任。現在は報道官(南シナ海問題担当)を務める等、フィリピン沿岸警備隊の中核を担い、日本及びアジア各国海上保安機関との関係強化にも引き続き貢献している。

●エラディオ・トレス氏【出身国】パラグアイ【留学先大学】九州工業大学(修士課程)
パラグアイ宇宙機構に所属する同氏は、JICA・JAXAとの連携の下で2021年に成功したパラグアイ初の衛星打ち上げに関与。2022年に本研修で来日し、九工大において災害時の通信支援としてのアマチュア無線通信システムの活用にも繋がる小型人工衛星開発に参画。帰国後も日パラグアイ間の宇宙分野の協力に貢献している。